

## 八幡市域中高一貫教育に関する研究協議会（第3回）

1 日 時：平成17年11月24日（木） 午前9時30分～正午

2 場 所：京都府庁旧本館会議室2-L

### 3 意見等

#### ○ 連携型による中高一貫教育について

事務局より1中学校（区域外就学も可）と1高校による連携と市内すべての中学校（4校）と1高校の連携型の手法が提示され、両案をベースに検討する。

#### (1) 1高校と1中学校による連携について

- ・ 1中学校と密度の濃い連携をして付加価値を付ける方が高校、中学校双方にメリットがある。
- ・ 複数校と連携するよりも学習が組み立てやすく、成果を得られるのではないか。
- ・ 受験競争の激化を招かないようにしないといけない。
- ・ 連携する中学校と他の中学校で教育内容に差異が出るのは問題ではないか。
- ・ 中学校教育の質を高めなければ学力低下が懸念される。
- ・ 学力の高い子が私学等へ進学していく状況に変わりはないのではないか。
- ・ 八幡市のUD構想では小中一貫教育を軸としていく方向性である。特定中学校との連携は今の方向性には適さない。

#### (2) 1高校と4中学校による連携について

- ・ 連携は「総合的な学習の時間」などで工夫していくことになるだろう。
- ・ 中学校段階でいろんな選択肢が与えられるのはいいことだと思う。
- ・ 中学3年生の選択授業等と高校のカリキュラムを連携させていくほうがいいのでは。
- ・ 定員上全員が八幡高校に入学できない。八幡高校への進学を望まない子もいるので、強制するのではなく、連携コースという選択肢を設定すべき。
- ・ 各中学校に連携コースを設置してはどうか。
- ・ 連携コースの進学を八幡高校に限定することはできないか。
- ・ 都市型なので一貫コースからもれた子がでてくるときにどうしていくのか。

#### (3) 全体として

- ・ 地元の人材育成はいいことだが、コンセプトをしっかりとすることが大切。
- ・ 府立高校への志望状況が変化していくなかで狙いをどう定めるかがポイント。
- ・ 簡便な入試だけで高校へ進学でき、ゆとりを持って学習できるという点だけでは中高一貫校の魅力が足りないのではないか。保護者のニーズにこたえる取組が必要。
- ・ 他県で成績を要件に選抜しているところがある。仕組みとしてはわかりやすい。
- ・ 成績を判断基準にするかどうかについては十分検討をする必要がある。